



文化活動支援賞

「はあ〜とふるふあんど事業」

兵庫県遊技業協同組合

「はあ〜とふるふあんど事業(兵遊協・ハート玉福祉支援事業)」は、地域福祉の向上や文化の育成を目的に平成13年(2001年)スタート。各店舗と来店客の協力をもとにこぼれ玉や余り玉を基金として積み立て、「ユネスコ文化活動支援事業」、「ひょうごボランティアあしすと事業」、「ひょうごふるさと振興サポート事業」の3分野に、年間1,000万円を支援している。

のメディアに働きかけ、「はあ〜とふるふあんど委員会」を創設、同事業のコンセプト作りが始まる。
まず、遊技業界全体が社会貢献するにはどうしたらいいかが協議され、「こぼれ玉」を資金源として活用する結論がすぐに出る。こぼれ玉の所有権は各店舗。同時に、来店客が買う権利のある商品でもある。またこぼれ玉を集めるのは従業員だ。つまり、こぼれ玉活動は、店・お客様・従業員の日々の協力がなければ成り立たない。そこで各ホールに募金箱が置かれ、こぼれ玉の他に景品交換後の余り玉も寄付してもらうことにした。この玉を基礎財源に、店舗からの寄付金も含む「はあ〜とふるふあんど基金」として積み立てる。店・お客様・従業員による社会貢献の仕組みができたのである。
が一方で、日々の寄付活動を積極的に、誇りを持って続けていくためには、集めた寄付金が、どのように使われているのかを実感させる必要がある。結果、「ユネスコ文化活動支援事業」「ひょうごボランティアあしすと事業」「ひょうごふるさと振興サポート事業」の3分野への支援が決まった。

こぼれ玉、1個から始まる社会貢献

「はあ〜とふるふあんど」事業がスタートする以前にも、兵庫県遊技業協同組合(以下、兵遊協)は、様々な形での社会貢献事業を行ってはいたという。しかし、社会的に認知をさせる仕組みと仕掛けがないため、当の組合員自身も、自分たちの寄付がどのように運用されているかわかりにくい状況だった。兵遊協はもっと地域社会と連動し、広く活動を知って欲しいとの思いから、地元

ユネスコ文化活動支援事業



(財)文化財保護・芸術研究助成財団
カンボジアのアンコール・ワット遺跡や北朝鮮の高句麗壁画古墳群など世界的文化遺産の保護活動を積極的に展開。

ひょうごボランティアあしすと事業



くすのきグループ
34年間活動してきたくすのきグループは、視覚障害者の福祉増進に寄与することを目的としたボランティア団体。障害者のための音訳や情報提供サービスなどを行っている。

「はあ〜とふるふあんど」のコンセプトは こぼれ玉、余り玉の活用

誇りを持って続ける端緒となった 「ユネスコ文化活動支援事業」

社会貢献を誇りを持って継続する原動力になったのが今回評価された「ユネスコ文化活動支援事業」に他ならない。
ユネスコ活動支援事業を掲げた当初は、組合員から理解が得られないのではという懸念もあった。しかし、アフガニスタンのタリバン勢力によるバーミヤンの仏像破壊が報道され、世界遺産への関心が高まっていた。またユネスコ親善大使としてアンコール・ワットや高句麗古墳の保存に取り組んでいた平山郁夫画伯から、世界の文化遺産保護に協力して欲しいとの熱い呼びかけもあり、漠然としていたユネスコ文化活動支援事業は、平山親善大使への活動支援という目に見える具体的なものとなった現在も年間1,000万円を財団法人日本ユネスコ協会連盟を通じて支援している。
神戸は阪神淡路大震災の際、日本はもちろん世界各国からの支援や激励を受けた。その意味でも、世界の文化遺産を守る

ユネスコ文化活動
支援事業
(教育・文化国際事業支援)

ひょうご
ボランティア
あしすと事業
(地域ボランティア支援)

ひょうご
ふるさと振興
サポート事業
(地域振興支援)

ための活動は、組合にとっても意味のあるものとなっている。

阪神淡路大震災の経験

また、地域ボランティア支援の「ひょうごボランティアあしすと事業」と、地域振興支援の「ひょうごふるさと振興サポート事業」の2分野も「はあ〜とふるふあんど」の要である。いずれも、支援をして欲しいと名乗り出た団体を、「はあ〜とふるふあんど委員会」が審査することによって、支援団体や支援金額などを決めていく。寄付が誰にどのように使われ、どんな結果を生んでいるかが誰の目にも明瞭にわかるようになったのである。
そのひとつ「ひょうごボランティアあしすと事業」は、阪神淡路大震災の経験から、ボランティア活動を地域社会の中に位置づけていこうという主旨を持つ。平成17年(2005年)度に支援を申し出たNPOやボランティア団体、福祉施設などの130団体、うち34団体に、総額1,000万円が支援された。例えば「月ヶ丘子育て支

ひょうごふるさと振興サポート事業



兵庫車椅子バスケットボール連盟
「第13回のじぎく杯争奪車椅子バスケットボール大会」



月ヶ丘子育て支援パンダ
10月にミニ運動会を開催。



リメンバー神戸プロジェクト
震災の生き証人「神戸の壁」を描いた作家たちによる展覧会を開催。



(特)神戸日独協会
チアリーダー世界大会。
ドイツ代表チームと交流。



芝居工房来るくる座
第5回公演。テーマは高齢者の孤独について。



ボランティア活動支援と 地域おこし活動支援は、2つの要

援バンド」ではミニ運動会を開催、「芦屋市障害児教育研究協議会」では「なかよし教育キャンプ」。視覚障害者福祉に取り組んでいる「くすのぎグループ」は、助成金を、神戸点字図書館の利用者との交流会に活用したなど、支援は枚挙のいとまがないほど。

また一方、「ひょうごふるさと振興サポート事業」は県内の地域おこし活動をしている地域振興団体が支援の対象。平成17年(2005年)度は、支援を申し出た59団体のうち27団体に総額1,000万円を支援している。主に地元で行われる地域の美化や住民の交流等の費用に充てられ、地域活性化に大いに役立っている。



劇団プロデュースF
50回記念公演「僕らはそこで夢を見た」を支援。



the ラジオ ♪

『はあ〜とふるふあんど リクエスト』コーナーの紹介

毎週日曜日の午前11時から午後1時まで放送される、ラジオ関西「藤沢俊一郎のDO YOU SUNDAY」には、「はあ〜とふるふあんど リクエスト」コーナーがある。はあ〜とふるふあんど事業を県内の人々にもっと知って欲しいという考えで、事業立ち上げ当初からスタートしたコーナーだ。

毎週約10分間の枠で事業への理解を呼びかけたり、支援を受けた団体によるイベントの様相を紹介。平成18年(2006年)6月4日の放送は、明石遊技業組合長で県遊技業協同組合の防犯広報委員長でもある富山喜一氏をゲストに迎え「おかげさまで『はあ〜とふるふあんど』事業は、賛同店や従業員やお客様に支えられて5年目を迎え、現在までに243団体に1億4,000万円を支援してきました」など「はあ〜とふるふあんど」事業の話題を伝えた。



文化活動支援賞

—選考理由—



社会貢献活動審査委員会 委員 山下 頼充氏

パチンコ店内のこぼれ玉や余り玉を来店客の理解と協力のもとに換金して有効に活用しようとスタートしたユニークな活動です。

阪神大震災という未曾有の大惨事の体験から兵庫県遊技業協同組合は、復興過程で地域社会の重要性を痛感し、コミュニティの育成や文化の振興に積極的に取り組んでいます。

日本でのユネスコの活動に対し4年連続して多額の助成を行うとともに、震災をきっかけに誕生したNPOやボランティア団体、それに福祉施設などへの多彩な支援活動が審査委員会で高い支持を集めました。組合加盟の90%のホールが賛同しているこの活動の輪がさらに広がることを願っています。